府立今宮工科高等学校　定時制の課程
准校長　森本　克己

令和７年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

本校は過去において、多くの勤労生徒の高校教育の場としてその役割を果たしてきたが、現在においては、勤労生徒は減少し、不登校経験者、他校からの編転入生徒、やり直しを希望する生徒、日本語を母国語としない生徒、支援が必要な生徒など、さまざまな課題を抱える生徒が入学している。そのような生徒に対応し丁寧に寄り添いながら、それぞれの興味や関心、家庭生活の状況に応じた指導を行い、地域の公的機関等との連携を深め、生徒自身の自立を促し、進級そして卒業に向けた支援により、多くの社会に役立つ人材を育成する

１．生徒が、「すこやかにきびしく」を目標に、規則正しい生活習慣と自らを律する力を基盤とした人間力の向上をめざすことができるよう全ての教科において基礎・基本を確実に身に付けさせ、生徒が主体的に将来の職業を選択することができる態度を育成する。
２．地域や地元中学校のニーズに応え、広く本校で学ぶことを希望する生徒を受け入れる。
３．さまざまな課題を抱える生徒に対応し、丁寧で寄り添った温かみのある伴走型学校教育を柱とし、中学校や生徒、保護者から「丁寧でめんどうみのよい学校」と言われるなど、地域等から愛される学校をめざす。
４．生徒と教員が信頼関係を築き、個々の生徒に寄り添い、学校が心の居場所となるよう努める。
５．定時制総合学科の特性を活かし、生徒のさまざまな興味・関心に応じた教育活動を展開する。
６．さまざまな生徒が同じくして学ぶことから、「人に対する思いやり」を身につけるよう、人権教育を推進する。

２　中期的目標

次の取組みにより、生徒の「学力保障」と「卒業」と「夢」の実現を図る。

１　キャリア教育の充実

（１）人として生きていくための人格の形成

ア：さまざまな観点からの人権教育の推進

※教員、生徒に対しての人権教育等の研修や講演をそれぞれ年間２回以上実施する。(R４コロナにより各１回　R５教員２回、生徒３回、R６教員２回、生徒３回)

※「安全で安心な学校づくり事業」「府立人研」「府立外教」等への積極的な教員・生徒の参加を進める。

（２）社会人としてのスキルアップをめざす

イ：基本的生活習慣を確立させるため、教員が声かけを積極的に行い「挨拶」を励行する。

※教員による登下校時の正門立ち番や、授業中における廊下巡回等を継続する。

※学校教育自己診断の「学校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。」の肯定率を令和９年度までに 90%以上とする。(R４ 90% R５ 90% R６ 88%)

ウ：外部人材による講演会や職業体験研修会を開催し、職業観・勤労観の育成を進める。

※学校教育自己診断の「将来の進路や生き方について考える機会がある。」の肯定率を令和９年度までに 90%以上とする。(R４ 94% R５ 91% R６ 88%)

（３）進路指導の充実

エ：生徒の就業意識の向上、進路選択の育成、希望に応じた進路の実現を図り、学校斡旋就職希望者の内定率を令和９年度まで 100%を継続する。(R４ 100% R５ 100% R６ 100%)

２　基礎学力の定着

（１）基礎学力の定着と自ら考える力の育成

ア：基礎学力の不足を補う授業の展開や学ぶことの楽しさを知る授業の充実に努める。

※学校教育自己診断の「授業はわかりやすく楽しい。」の肯定率を令和９年度まで 85%以上を維持する。(R４ 84% R５ 83% R６ 88%)

※学校教育自己診断の「教え方に工夫している先生が多い。」肯定率を令和９年度まで 85%以上を維持する。(R４ 84% R５ 91% R６ 93%)

イ：ICT を用いた授業の拡大と、生徒自らが課題を見つけ、学び、考え、判断する能力を育成する。

※学校教育自己診断の「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」の肯定率を令和９年度まで 85%以上を維持する。(R４ 81% R５ 85% R６ 87%)

（２）進級・卒業率の向上

ウ：基礎学力の充実のため、特別教育活動に力を入れるとともに、保護者や地域支援者と連携し、進級・卒業率を令和９年度まで 90%以上を維持する。(R４ 97% R５ 90% R６ 90%)

３　自尊感情の向上

（１）学校生活の充実と活性化

ア：生徒会活動・部活動や校外清掃ボランティア活動の活性化と自校愛の育成を図る。

イ：HR 活動や体育祭、文化祭、球技大会を生徒主体の活動となるような取組とする。

ウ：定時制通信制生徒秋季発表大会等への参加を推進する。

４　生徒支援と校内外の安全体制の確立

（１）生徒支援委員会の活性化

ア：全教職員で生徒の情報共有を行い、SC・SSW も参加した生徒支援委員会等を令和９年度まで年 10 回以上を維持する。(R４ 10 回 R５ 10 回 R６ 10 回)

イ：課題を抱える生徒の支援を積極的に行い、関係諸機関との連携を図る。

（２）中学校連携

ウ：中学校での生活からスムーズに高校生活に接続するため、新入生の出身中学校を訪問し情報共有に努める。

エ：夏季休業中などに近隣中学校を訪問し、定時制高校での教育内容の周知に努める。

５　健康教育の推進

（１）生徒総合健康診断の完全実施

ア：生徒の健康状況の把握と治癒の奨励を図る。また、夜間定時制に学びながら仕事と両立している生徒の健康維持を図る。

（２）教職員の健康増進維持の推進

イ：勤務時間の適正化や働き方改革の推進を図る。定時退庁日の完全実施の継続、長期休業中に学校閉庁日を設け、夏季、冬季ともに連続７日間以上の閉庁日を設定する。(R５ 夏季連続７日、冬季連続８日 R６ 夏季連続７日、冬季連続８日)

ウ：教職員に対しての健康増進・維持のための研修会を年２回以上開催する。(R４ ２回 R５ ２回 R６ ２回)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［令和８年１月実施分］	学校運営協議会からの意見
【各数値は肯定的評価率】 【生徒対象】 ・総合的にみて生徒と教員との関係はおおむね良好と考えられる （「意見を聞いてくれる」87.8%、「教え方に工夫している」81.6%、「質問しやすい」80.0%、「悩みや相談に親身になって応じてくれる」76.9%など） ・授業に関しては評価が低調なものもあり、今後授業改善に取り組む必要性が示された（「わかりやすく楽しい」73.8%、「考えをまとめたり発表する機会がある」63.4%　など） 【保護者対象】 ・多くの項目で80～100%の高い評価であり、学校教育活動全般に対しての理解がいただけた（「生徒は学校へ行くのを楽しみにしている」83.3%、「保護者等の願いにこたえている」90.9%） ・「授業がわかりやすく楽しいといっている」肯定率72.7%であった →生徒と同様、他の設問と比較すると低いため、魅力ある授業づくりに一層取り組む必要がある 【教員対象】 ・多くの項目で80%以上の結果が得られた。教職員もやりがいや自信をもって学校教育活動に取り組んでいると考えられる ・一方、低調な項目をふまえると、今日的な学校改善の取組みの強化が必要なことがうかがえる。今後の取組みの軸としたい。 （比較的低調な項目「生徒支援機能」64.3%、「校則を生徒と話し合う」46.7%、「経験年数の浅い教員の全体での育成」63.1%　など）	第１回（６月 17 日） ・今年度「進級・卒業率の数値向上」が掲げられている。生徒数も増加・多様化している。さまざまなことにチャレンジしている生徒がいる中、この数値を評価指標にすることにより、教員の負担やうまくいかないなどの難しさも考えられるだろう。数値以外について、学校でも価値を見出し、取り組んでほしい。 第２回（10 月 25 日）　（文化祭の見学・委員の参加をふまえた意見） ・生徒が楽しそうに活動している。 ・（教員と）生徒とのコミュニケーションができている。 ・生徒が（学校での）大切な経験を維持するためのしかけづくりを行うことは大事である。 ・（欠席等含め）文化祭に来られなかった生徒がいるということを真摯に受け止め、どのようにすれば来ることができ、楽しく参加できるかを考えていくことも大切である。 第３回（２月 28 日） ・学校教育自己診断で、学校課題の見える化を図ることができたことはよい。 ・今年度「楽しい学校」を掲げ、チャレンジングな難しい課題設定に取り組まれたと思う。「安心」「充実した学び」「楽しい」を一斉にクリアすることはとても難しい。これらに取り組もうとしている「学校の変化」を感じる。 ・就職希望者の内定率という数字だけを追い求めるのでなく、時代の変化をふまえた「進路の質」を大事にすることを継続してほしい。 ・令和８年度の学校経営計画において、「めざす学校像」などを見直したのは、現在の取り組み状況などをふまえ、適切と考える。 ・学校経営計画及び学校評価を承認する。

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R６年度値]	自己評価
①キャリア教育の充実	（１）人として生きていくための人格の形成	（１） ア：さまざまな観点からの人権教育を推進する。教職員や生徒に対する講演会、研修を学期毎に実施する。また府立人権や府立外教の教員向け研修への積極的な参加、また特に日本語を母国語としない生徒の交流会への当該生徒の参加を促す。	ア：■生徒や教職員の人権研修会等をそれぞれ年２回以上実施する。[生徒３回、教職員２回] ■府立人研等が実施する研修や講習会に、教員をのべ10人以上参加させる。[新規]	ア：■生徒向け人権研修　　４回 教職員向け人権研修　２回 SNSの問題や同和問題に関し、外部講師を招いた人権研修を実施できた　（◎） ■人権関係研修等参加のべ教員数 19人（◎） 外部研修で学んだこと等をさまざまな機会を通し、生徒へ伝えることができた
	（２）社会人としてのスキルアップをめざす	（２） イ：基本的生活習慣の確立と、「挨拶」をする習慣を身につけさせるため、教員による毎日の正門当番や巡回当番を実施する。	イ：■学校教育自己診断「学校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。」の肯定率80%以上を維持する。[88%]	イ：■学校教育自己診断結果　　79.5%（○） 年間を通した教員の正門当番（登校時・休み時間）を実施し、生徒とのあいさつや声かけ・関係づくりができた
		ウ：職業観・勤労感の向上をめざし、外部人材を招いた講演会、研修会を実施する。	ウ：■学校教育自己診断の「将来の進路や生き方について考える機会がある」の肯定率 85％以上を維持する。[88%]	ウ：■学校教育自己診断結果　　73.2%（△） 企業の方を招いた講演実施　２回 生徒へ「社会」や「就労」について知り考える機会の設定・実施できたが、生徒の実感が十分に伴うには至らず。 今後、より生徒に即した魅力ある取組みに改善して実施する
	（３）進路指導の充実	（３） エ：生徒一人ひとりに対応した丁寧で粘り強い進路指導を実践し、夢の実現を図る。	エ：■学校斡旋就職希望者の内定率 100%を維持する。[100%]	エ：■学校斡旋就職希望者の内定率　100%（○） 卒業予定者を対象に希望の進路実現に向け面談等をていねいに実施。生徒に寄り添った進路指導を行うことができた

府立今宮工科高等学校　定時制の課程

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R６年度値]	自己評価
②基礎学力の定着	（１）基礎学力の定着と自ら考える力の育成	（１） ア：基礎学力の不足を補うために、モジュール授業や習熟度別の少人数授業を実施し、学ぶことの楽しさを知る授業の充実に努める。	ア:■学校教育自己診断の「授業はわかりやすく楽しい。」の肯定率 80%以上を維持する。[88%]	ア：■学校教育自己診断結果　73.8%（△） 授業規律の向上に意識的に取り組んだ影響も考えられる。今後、よい学びの空間を維持するとともに魅力ある授業づくりに取り組み、楽しさを実感させたい
			■学校教育自己診断の「教え方に工夫している先生が多い。」の肯定回答率80%以上を維持する。[93%]	■学校教育自己診断結果　81.6%（○） 生徒の資質・能力をふまえた授業展開を多く実施。生徒の学ぶ意欲の喚起をできた成果だといえる
			■学校教育自己診断の「授業でわからないことについて、先生に質問しやすい。」の肯定率 85%以上を維持する。[88%]	■学校教育自己診断結果　80.0%（○） 前年度が高い評価のため、数値は未達であるが高値を維持。授業内外での質問対応含め、生徒と教員の良好なコミュニケーションが図れている
		イ：生徒がより一層学ぶことの喜びを味わえるよう、ICT を用いた授業の拡大を図るため、教員研修を実施する。そのことを通じて生徒自らが課題を見つけ、探究する能力を育成する。	イ:■学校教育自己診断の「授業で自分の考えをまとめたり、発表する機会がある。」の肯定率 75%以上を維持する。[87%]	イ：■学校教育自己診断結果　63.4%（△） プレゼン・ディベート・リフレクションなど生徒が「考える」場面の創出に取り組んだが、生徒評価は低調。今後、生徒の実感を伴う授業づくりのため、ICT 活用をはじめ「主体的・対話的で深い学び」について引き続き取り組む。
	（２）進級・卒業率の向上	（２） ウ：学校が生徒の居場所の一つとなるよう、生徒に寄り添い、丁寧な指導を教育活動のすべての場面で実践する。	ウ：■進級・卒業率 85%以上を維持する。[90%]	ウ：■進級・卒業率　82.5%（○） NPO 法人を活用した「居場所づくり事業（すずめカフェ）」を実施。またさまざまな授業でティームティーチングや少人数展開などの工夫、職員室での個別指導など、生徒個々に寄り添った指導を継続的に実施できた。
③自尊感情の向上	（１）学校生活の充実と活性化	（１） ア：自校や地域を愛する心を育むため、生徒会が主体となり、清掃ボランティアを行う。 イ：生徒会活動が活発になるよう、教員が支援する。また毎週の HR 活動後に生徒会会議を行い。学校行事等の担い手として指導する。 ウ：定時制通信制高校生の交流の場である「生徒秋季発表大会」、特に生活体験発表に参加の生徒を募るとともに校内選考会を行い、代表として参加できるよう指導する。	ア：■清掃ボランティアを年２回実施する。[１回] イ：■生徒会会議を年 40 回以上開催する。[66 回] ウ：■生徒秋季発表大会の生活体験発表の部に学校の代表者１名を参加させる。他の部門については、積極的に参加をさせる [のべ 16 名]	ア：■清掃ボランティア　１回（○） （荒天のため２回計画のうち１回は中止） イ：■生徒会会議　65 回（◎） 生徒会会議の継続的な実施により、球技大会・体育祭・文化祭などの学校行事が生徒主役で行われ、大変盛り上がった ウ：■生徒秋季発表大会 生活体験発表・作品部門・芸能部門　16 名参加 作品部門において「知事賞受賞」(最優秀)その他で２名が受賞　（○）
④生徒支援と校内外の安全体制の確立	（１）生徒支援委員会の活性化	（１） ア：様々な課題を抱えた生徒に対する指導・支援方法の検討やいじめの早期発見などについて、管理職、SC、SSW、生活指導部、保健部、学年、担任等が参加する生徒支援委員会を定期的に開催する。また、職員会議や毎日の連絡会において生徒の状況を報告し、教職員の共通理解に努める。	ア:■学校教育自己診断の「先生はいじめなど私たちが困っていることについて真剣に対応してくれる。」の肯定的回答 85%以上を維持する。[新規 89%]	ア：■学校教育自己診断結果　75.0%（△） 生徒支援委員会(SSW、SC 参加)　10 回 いじめアンケート（全生徒対象）３回 生徒の困りごとに寄り添う対応を継続。学校教育自己診断「気軽に相談できる先生がいる」の肯定率は74.4%であった。安心して通える学校であるため「相談できる」、「困りごとにしっかり対応する」という学校の体制を強化したい
		イ：生徒支援委員会、担任等が中心となって、福祉関係機関と連携し生徒の生活環境や経済状況の改善を図り、生徒を非行から回避させ、犯罪から守るため、警察等と連携を図る。	イ:■必要に応じて、子ども家庭センター、区役所、ケースワーカーや警察関係機関との連携をする。[のべ回数 20 回]	イ：■関係機関との連携数　25 回 SSW を交えたケース会議　30 回　（◎） SSW・SC・地域資源などとの連携が行え、学校の教職員だけでは十分な支援が難しいケースでも支援を実施できた
	（２）中学校連携	ウ：中学校での生活からスムーズに高校生活に接続するため、新入生の出身中学校を訪問し情報共有に努める。	ウ：■すべての生徒の出身中学校を訪問する。(大幅な過年度生を除く)[すべての出身中学校]	ウ：■すべての生徒の出身中学校訪問実施（○） （大幅な過年度は除く） 有用な情報交換等を行うことができた
		エ：夏季休業中などに近隣中学校を訪問し、定時制高校での教育内容の周知に努める。	エ：■西成区、港区、大正区、浪速区、阿倍野区、住之江区の全ての中学校（31 校）を訪問する。[31 校]	エ：■近隣６区の中学校訪問数　32 校（○） 現在の定時制高校での学びの様子を伝え、広く知っていただくことができた

府立今宮工科高等学校　定時制の課程

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R６年度値]	自己評価
⑤健康教育の推進	（１）生徒総合健康診断の完全実施	（１） ア：生徒が学業や働くことに励むには、健康で生活をすることが、必要である。そのため、身体的な疾病の早期発見やその治癒のため、生徒全員参加の総合健康診断を行う。また、性教育や健康等に関する講演会等を実施する。	ア:■生徒の健康管理のため、総合健康診断の参加 100%を継続する。(ただし、長欠を除く)健康診断後の治癒状況の調査と結果分析を行う。 ■学校教育自己診断の「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」の肯定的回答 90%以上を維持する。[新規]	ア:■生徒の総合健康診断の参加　　100%(○) 保健部・担任が中心となり総合健康診断への参加を粘り強く働きかけた結果、長欠の生徒を除き、全員が参加できた。健康診断結果に関し、学校医等と分析。生徒の健康サポートにつなげられた。 ■学校教育自己診断結果　　79.5%（○） 前年度が高い評価のため、数値は未達であるが高値を維持。外部から講師を招き「性について考える」「がん教育」「防災教育」など生徒にとって「命の大切さ」を考える学習の実施ができた
	（２）教職員の健康増進維持の推進	（２） イ：教職員には勤務時間の適正化を求める。また「働き方改革」の実行のため、定時退庁日の完全実施や長期休業中の学校閉庁日の設定を行い実践する。 ICT を活用し、ペーパーレス会議を推進するなど、効率的な会議の運営を行う。また、各学年の円滑な連携を図り勤務時間の適正化を図る。	イ：■定時退庁日の完全実施の継続［毎週金曜日継続実施］ ■長期休業中の学校閉庁日を設け、夏季、冬季とも連続７日以上とする。[夏季連続７日、冬季連続８日］ ■時間外等在校時間の減少に努め、職員連絡会等で定時退庁日の周知を継続して行う。[月平均 8.7 時間]。	イ：■毎週金曜日の定時退庁日を継続実施（○） 金曜日はノークラブデーとし、定時退庁を図りやすい環境づくりも行った ■学校閉庁日　　夏季７日、冬期８日（○） 校内外に趣旨の周知とともに理解を求め計画通り実施することができた ■時間外等在校時間　月平均 5.0 時間（◎） 定時退庁日の継続的な周知とともに、必要に応じ、週休日の振替、勤務時間の変更を適切に行い、時間外在校時間の縮減を行うことができた
		ウ：定時制で勤務する教職員が自身の健康管理の重要性を認識するために、健康増進維持研修会等を実施する。	ウ：■教職員に対する健康増進維持研修会を年２回実施する。［２回］	■健康増進維持に関する研修　　２回（○） ストレスマネジメントや生活習慣についての研修会を実施。 ストレスチェックの総合健康リスクは 76 と大変良好な結果。引き続き、教職員にとっても健康増進・維持が図れる職場づくりをめざす